

学校法人 長崎学院 長崎外国語大学

# ぶどうの樹

2013.02

NO. 11

特集

サークル紹介 (ベリーダンスサークル jasmine\*)

授業紹介 「同時通訳演習Ⅲ・Ⅳ」



# 「新しい私、発見」サークル紹介 (ベリーダンスサークル jasmine\*)

本学では現在26のクラブ・サークルが活動しています。今回はその中から、ベリーダンスサークル jasmine\*を紹介しします。



ベリーダンスは、お腹や腰の動きに特徴のあるダンスです。女性の素晴らしさを表現できる踊りとして、世界各国で愛され人気を呼んでいます。jasmine\*を立ち上げ、部長を務める山手美沙さん(外国語学部 現代英語学科 4年)にお話を聴きました。

**Q** サークル設立のきっかけは？  
**A** 私が出演するイベントを観に来てくれた友人が「私もやりたい！」と言い出したのがきっかけです。それから興味を持ってくれるメンバーがだんだん増え、2011年6月に正式にサークルとして発足しました。

**Q** 活動の様子を紹介してもらえますか？  
**A** 現在、マネージャーを含め15人が所属し、そのうち2人はカナダと台湾出身の留学生です。週に3回学内で練習をしています。学内だけではなく、学外のイベントにも招待されるようになりました。

**Q** 最も印象に残っているイベントは？  
**A** 昨年の夏に長崎空港で行われた震災復興チャリティイベントはとても印象に残っています。はじめて一般の方に観てもらおうステージで、30分の長い時間を与えられたことは、大きな挑戦でした。イベントに向けて、部員同士高め合い練習を積み重ねました。30分間のステージもあつという間に感じられるほど、緊張していました。たくさんの拍手をいただいた時は、こみあげるものがありました。

**Q** ざぱり、ベリーダンスの醍醐味は何だと思えますか？  
**A** 「新しい私を発見できる」ところが最大の魅力だと思います。練習では鏡を見ながら、指先の動きや首

の傾きなど、自分が最も美しく見える姿を追求していきます。またサークルとして活動できたことで、多くの方々に観てもらえました。出演を重ねるたびに、自分の自信につながりました。



サークルを結成してから2年間、学内外のイベントに出演し多くの方々の心をつかみ楽しませてくれました。山手さん自らも含め主力の4年生がこの春に卒業を迎え、2月の卒業リサイトで活動休止となりました。卒業後も何らかの形で活動をサポートし、後輩たちが引き続きベリーダンスに魅力を覚え、活動が再開することを期待します。

## 「同時通訳演習

## Ⅲ・Ⅳ

## 授業紹介



2011年度より本学に導入された同時通訳システム。国際会議などで実際に使用するものと同じ設備を導入している大学は、全国でも数少ない。

そもそも、長崎は専門職としての通訳者発祥の地である。通詞はオランダ語、中国語、英語などの通訳実務のほかにも貿易も取り仕切ってきた。その長崎で、本学は学科改組を行い、2009年度より現代英語学科の「通訳・翻訳プログラム」をスタートさせた。本プログラムでは、即戦力となる高度な英語運用力を涵養するべく、逐次通訳・同時通訳・産業翻訳の実践訓練を行っている。今回は、本プログラムの「同時通訳演習Ⅲ・Ⅳ」の授業を取り上げてみよう。

まず、授業は「シャドーイング」という、同時にリピートしながら瞬発力とイントネーションや発音を矯正する訓練から始まる。日本語→英語の順にニュースを聞きながらシャドーイングを行い、ウォーミングアップをする。それから同時通訳の練習がはじまる。

今回授業で取り上げるのは、アメリカ議会の財政法案に関するニュースの日本語への同時通訳だ。課題として出されていたアメリカの議会の制度や政治献金に関する問題の下調べや想定される用語集をクラスで確認する。その後、2012年度より導入した最新鋭のCALLシステムを使って同時通訳を行う。

「同時通訳が成功するかどうかの90%は、事前準備で決まる」と言われている通り、綿密に下調べをしないと同時通訳はできない。同時通訳とは、ただ「単語を別の言語で置き換える」のではなく、「理解した内容を別の言語で説明する」ものだからだ。そのため、語学力だけでなく背景知識がモノを言う。

ひと通りCALLシステムを使って同時通訳をしたあと、担当の南津講師が受講生の訳出表現の選び方、文章の作り方などに関してコメントをする。その後、ペアで同時通訳ブースに入って、本番さながらの同時通訳を行う。狭い同時通訳ブースは独特の緊張感が漂う。声だけで相手に情報を伝えるには、明瞭な発音、癖のないイントネーション、適切なスピードのほかに、適切な表現の選択、わかりやすい文章の組み立てが必要となる。次に、その同時通訳のパフォーマンスを、学生同士で評価し合う。同じ立場からの評価は、技術を磨く上で欠かせない。この積み重ねを行い、即戦力となる高度な英語運用能力を育成していく。

すでに、「同時通訳演習Ⅲ・Ⅳ」の受講生は、本学の秋学期入学式や短期留学生修了式で、実習として日本語から英語への同時通訳を提供している。高度な語学運用力の育成が求められているいま、本学の挑戦は続く。

# 私達 外大 保護者会 です



**上野 恭裕**  
理事(総務)

気がつけば、保護者会理事として3年目が終わろうとしています。この間、学生のためにできることが、もう少しあったのではないかと反省しております。理事をさせて頂いた中で、学生と話をする機会がありました。それぞれ素晴らしい考えを持っており、教えられる事が多くありました。保護者会として安心・充実した学生生活がおくれるよう大学側と力を合わせて、学生たちを見守っていきたくと考えていますので、よろしくお願ひします。



**坪井 紀幸**  
理事

愚息が入学して早四年。この間留学、外国人との交流を経て今春は卒業となりました。今日まで理事会、総会、奨励金の活用支援等、理事として同会活性のため遠路を進んで参画しました。正に光陰矢の如しです。顧みて、父兄が最も期待することは卒業時までに社会人として自立でき生計の道筋が確立されることでしょうか。幸いにも支援課の勤めにより就活したところ内定を頂き一息ついたところです。大学運営の危機、就職混迷の時代にあつて、特に全学部門、同窓会等が緊密に連携してリクルート戦線に打ち克つ基盤の充実・強化に奔走してくださいよう切望します。最後に、関係各位の御支援・御協力に対し衷心より感謝と御礼を申し添えます。



**五反田勇三**  
理事

経済はグローバル化し、日本の企業は世界各国を相手に戦略を立てるようになってきている。企業が必要とする人材は、流ちょうな語学ではなく、交渉相手の歴史、文化を理解したうえで話し合いを発展させる異文化コミュニケーション力をもつ人材である。留学は目的ではなく、その力を得るための手段であり、一方策である。今、社会に出る4年間という限られた期間に、多くの経験を積んで有意義に過ごすことを期待している。



**佐野 美保**  
理事

私は役員になって二年目になります。主な活動は二ヶ月に一度の役員会に出席する事ですが、仕事を持っていきますので毎回出席できません。でも、子供が大きくなるにつれ学校に足を運ぶ回数が減ってくるものなので、少しでも学校行事に関われるのは良い事だと思います。高いお金を出して大学に通わせているのですから父兄の皆様一人一人が、もっと関心を持って保護者会などの行事に参加していただけたらと思います。



**井上 裕子**  
理事

「役員として伝えたいこと」  
娘の入学と同時に何も分からぬままに、保護者会役員となりました。役員と言いましても皆様方には、あまり貢献などできないまま2年経とうとしております。表題には「役員として」として置き換えて思っていることを伝えてみたいと思います。大学のコンセプトに「国際的な人材の育成」があります。私自身は長崎以外で生活したことがありませんが、海外生活が多い夫が言うには、「外国人と比べ日本人に欠けているのは、「自己主張のうまさ」で、その為には、彼らは論理性を熟考し、プレゼン等の術を学んでいるそうです。大学では、講義以外にも、多くの外国人を受入れ、また留学等積極的に取組まれることで、直接的に外国人から学ぶ経験の場を設けられているように感じます。語弊があるかも知れませんが、学生さんには、このような場を活かし外国人と席を並べて渡りあえる国際人を目指してもらえればと思います。保護者会としても国際人育成に奨励制度等を通して微力ながら支援していききたいと思います。



**片桐 睦雄**  
理事

大分出身の息子が長崎で学びたいと、大学にお世話になり始めて早2年。全く知らないところで、それでも楽しんでいそうに学生生活を送る様子を見て、「出会いに恵まれたな」と、うらやましく思います。「言葉」と、それを支える「行動力」で自分たちの世界を切り拓こうとしている外大生を誇りに思います。私自身は、そのほとんどの保護者の方々とは出会ってはいませんが、そのつながりに感謝をし、一緒に学生たちを応援していければと思うばかりです。



**吉岡きよ子**  
監事

「4年間の役員をふり返って」  
4年間早いものでもうすぐ卒業となりました。一年生の時から役員(監査)をさせて頂きました。が、私的事ながら完全参加という事ができず反省しております。しかしながら、役に携わりましたおかげで外大の運営および概念を知る事ができました。先生方の熱心な指導、外大ならではの国際キャンパス留学制度、すばらしいと思います。これからもよりいっそう子ども達が世界へはばたける夢の実現へ力を入れてほしいと願っております。



**島田 光弘**  
監事

はじめまして、ぶどうの樹前号の表紙で時津町ペーロン大会に参加している学生達の様子が掲載されましたがその時津町在住の島田と申します。保護者会では監事を務めさせて頂いております。保護者会では留学生達のサークル活動の支援やスポーツ大会や県外のスピーチコンテスト等の参加旅費の補助、それから、語学目標達成奨励費の授与や学友会活動の学生のための協力支援などを行っています。微力ながら保護者会として学生のためにお手伝いをしてゆきたいと思っております。

# 同窓会からのお知らせ

長崎外国語大学同窓会 会長 平野 大壽

皆さま方におかれましては、ご家族ともども穏やかな新年をお迎えになられましたことをお喜び申し上げます。

さて、今年は、四十有余年、会長を務められた吉田親生前会長から後継を託され、新体制となりましてから、初めての新年を迎えました。

代議員会を開催しました際、役員並びに代議員の皆様方の同意も頂き、今後の同窓会の目標として決議しましたのが、支部づくりでした。

何としても今年は、進展させていかなければと、強い決意しております。

幸いにも、昨年五月二十九日には、東京練馬区の平木輝夫様（五回生）が関東支部の支部長に就任され、お陰様で、念願でした同窓会初の支部を誕生させることができました。

今年、関東支部で初の支部会を開催できればと楽しみにしております。

さらに、沖縄、福岡等にも支部ができますよう、皆様方のご協力を宜しくお願い申し上げます。

## 住所・改姓等の変更手続きについて

同窓会では、同窓会員の皆様の情報を、安全かつ厳重にお預かり致しておりますが、姓名や住所の変更に係るデータの更新は、会員皆様方の連絡により行っております。  
みなさまのご協力をお願い申し上げます。

### ● 電話、Eメール、FAXによる通知の手続き

《長崎外国語大学同窓会事務局》 電話：095-840-2010（直通） FAX：左記と同じ番号です。

E-mail：dosokai@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp

受付時間 10時～16時まで（土・日曜日・祝祭日・冬期・夏期休暇は除く）

※留守の場合は、留守番電話にメッセージを、FAXの方は、送信してください。後日連絡致します。

### ● お手紙によるご連絡の場合

#### 【住所変更の場合】

宛名シールの右下の番号（会員番号です。）

T…短大

D…4年制大学

S…外国語学校専門部

※会員のかたは、T～Sの何れかに該当します。

姓名（フリガナをお願い致します。）

卒業年・卒業学部・学科・専攻

郵便番号・新住所

新電話番号

転居予定日

#### 【改姓の場合】

宛名シールの右下の番号

姓名（フリガナをお願い致します。）

旧姓・生年月日（西暦）

卒業年・卒業学部・学科・専攻

郵便番号・現住所

現電話番号（携帯可）

#### 【ご逝去された場合】

物故者として登録させていただきます。

宛名シールの右下の番号

会員氏名・ご逝去された日・連絡者

以上

送付先：〒851-2196 長崎市横尾3-15-1 長崎外国語大学 同窓会事務局宛



# 図書等教育環境充実に関わる寄付事業 寄付金応募のお願い

長崎外国語大学は「語学力」・「コミュニケーション力」・「人間力」の養成を目標に、また、「キャンパスが世界」（多くの留学生と日本人学生が共に学ぶ国際交流拠点としてのキャンパス）を旗印に、それに相応しい施設、設備の拡充を目指して、2012年10月から「図書等教育環境充実に関わる寄付事業」を開始いたしました。

本学図書館は現在約8万9千冊の蔵書を有していますが、教育環境向上のためには、より一層の充実が必要と考えております。もとより教職員一丸となって鋭意努力を重ね、蔵書の充実に努めてまいりましたが、地方の私立大学を取り巻く社会環境は大変厳しく、特に自然科学分野など十分とは言えない分野があることも事実です。

つきましては、誠に心苦しく存じますが、皆さまのご支援を賜りたく、ここに謹んでご寄付をお願い申し上げる次第です。

本事業の趣旨をご理解いただき、何卒ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

- ※ この募金は趣旨にご賛同いただいた方をお願いする任意のものです。
- ※ 入学前の募集は行なっていません。
- ※ 平成23年6月の税制改革により「学校法人に対する税制上の優遇制度」が導入され、個人様については税額控除、法人様については寄付金の全額損金算入などの優遇措置が受けられます。詳しくは、以下のHPをご参照ください。

本学HP：<http://www.nagasaki-gaigo.ac.jp/>

文部科学省HP：[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/shinkou/07021403/003.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shinkou/07021403/003.htm)

## 1、ご支援いただいた寄付の用途について

- (1) 学生の教育研究用図書館蔵書の充実に充てさせていただきます。
- (2) 教育及び研究活動環境の整備、向上のための経費に充てさせていただきます。

## 2、募金金額について

個人 1口 3千円

法人 1口 5千円

何口でも結構です。1口未満でもありがたく申し受けます。

ご支援いただいたご寄付は学生の教育環境充実にために大切に使用させていただきます。

🌸🌸🌸 皆さま方のご支援をお願い申し上げます。 🌸🌸🌸

### ご支援（寄付金）に関するお問い合わせ先

学校法人長崎学院 法人財務課 担当 松添、榎本  
電話：095-840-2003（直通）



# 学校法人長崎学院 2011 (平成23) 年度決算報告

2010 (平成22) 年度に引き続き、「学生募集の強化による学生数の増加、特に留学生の確保」に力を入れた結果、2010 (平成22) 年5月1日付で90.5%であった収容定員充足率は、2011 (平成23) 年5月1日付で95.9%と前年に引き続き向上しています。

収入については、学生生徒等納付金収入が前年度決算比で21,822千円の減収となりました。これは東日本大震災の影響によって短期留学生が大幅に減少したことに起因しています。補助金収入は採択性補助金の獲得に加えて、収容定員充足率の向上等による国庫補助金等の増加により、予算比39,935千円 (前年度決算比46,814千円) の大幅な増収となりました。また、寄付金事業においては2010 (平成22) 年度から「長崎学院創立65周年・大学開設10周年」記念事業寄付金の募集を行い、総額では12,322千円となっています。これらの結果、資金収支は借入金収入、私立大学退職金財団交付金収入および前受金収入等を除いた当期収入が、前年度決算比9,461千円 (前年度決算値1,214,238千円) の減収、消費収支においても帰属収入が前年度決算比1,889千円 (前年度決算値1,208,949千円) の減収となりました。

支出については当初予算項目については概ね計画通りでしたが、「長崎学院創立65周年・大学開設10周年」記念事業として①学生ラウンジ改修、②経年劣化した校舎・体育館の屋上改修工事、③校舎・女子寮の空調設備更新を含むその他施設設備の改修、④情報教育設備の新規導入といった設備投資を実施したこと、定年以外の事由による予算外の退職金支出による人件費の一時的増加等により大幅な支出増となりました。上記の結果、2011 (平成23) 年度決算は、帰属収支差額で28,446千円の支出超過となりました。

法人としましては、2011 (平成23) 年度決算について一時的な設備改修や人件費の増加を除くと収入超過であったものの決算としては支出超過となったことを真摯に受け取り、18歳人口の減少や国の補助金政策を含めて学校経営を取り巻く社会情勢の厳しさを踏まえて、より一層の学生確保、外部資金獲得による財務基盤の強化に取り組むことといたします。

## 資金収支計算書

[収入の部]

(単位:円)

[支出の部]

(単位:円)

科目	平成23年度予算	平成23年度決算	差 異
学生生徒等納付金収入	800,664,000	758,182,650	42,481,350
手数料収入	7,085,000	7,337,826	△252,826
寄附金収入	5,000,000	6,823,360	△1,823,360
補助金収入	234,440,000	274,374,804	△39,934,804
国庫補助金収入	234,240,000	258,102,000	△23,862,000
地方公共団体補助金収入	200,000	16,272,804	△16,072,804
資産運用収入	970,000	1,007,652	△37,652
事業収入	158,637,000	153,860,806	4,776,194
雑収入	67,102,000	118,016,616	△50,914,616
借入金収入	0	273,800,000	△273,800,000
前受金収入	222,661,000	180,553,800	42,107,200
その他の収入	22,034,819	36,198,155	△14,163,336
資金収入調整勘定	△253,089,112	△329,801,384	76,712,272
前年度繰越支払資金	275,721,967	275,721,967	0
収入の部合計	1,541,226,674	1,756,076,252	△214,849,578

科目	平成23年度予算	平成23年度決算	差 異
人件費支出	601,023,000	676,917,704	△75,894,704
教育研究経費支出	289,865,000	300,832,735	△10,967,735
管理経費支出	157,533,000	194,190,521	△36,657,521
借入金等利息支出	57,794,000	59,709,323	△1,915,323
借入金等返済支出	146,544,000	146,235,474	308,526
施設関係支出	20,000,000	195,305,715	△175,305,715
設備関係支出	40,624,000	97,713,907	△57,089,907
資産運用支出	0	1,399	△1,399
その他の支出	36,710,416	35,453,390	1,257,026
予備費	5,000,000	5,000,000	5,000,000
資金支出調整勘定	△30,716,443	△54,121,258	23,404,815
次年度繰越支払資金	216,849,701	103,837,342	113,012,359
支出の部合計	1,541,226,674	1,756,076,252	△214,849,578

## 消費収支計算書

[消費収入の部]

(単位:円)

[消費支出の部]

(単位:円)

科目	平成23年度予算	平成23年度決算	差 異
学生生徒納付金収入	800,664,000	758,182,650	42,481,350
手数料収入	7,085,000	7,337,826	△252,826
寄附金	7,800,000	9,106,385	△1,306,385
補助金	234,440,000	274,374,804	△39,934,804
国庫補助金	234,240,000	258,102,000	△23,862,000
地方公共団体補助金	200,000	16,272,804	△16,072,804
資産運用収入	970,000	1,007,652	△37,652
事業収入	158,637,000	153,860,806	4,776,194
雑収入	67,102,000	118,016,616	△50,914,616
帰属収入合計	1,276,698,000	1,321,886,739	△45,188,739
基本金組入額合計	△180,710,000	△154,727,090	△25,982,910
消費収入の部合計	1,095,988,000	1,167,159,649	△71,171,649

科目	平成23年度予算	平成23年度決算	差 異
人件費	598,592,000	669,277,565	△70,685,565
教育研究経費	331,698,000	349,629,944	△17,931,944
(減価償却額)	(41,833,000)	(48,797,209)	△6,964,209
管理経費	228,273,000	265,120,213	△36,847,213
(減価償却額)	(70,740,000)	(70,929,692)	△189,692
借入金等利息	57,794,000	59,709,323	△1,915,323
資産処分差額	0	6,469,167	△6,469,167
徴収不能額	0	127,018	△127,018
予備費	5,000,000	5,000,000	5,000,000
消費支出の部合計	1,221,357,000	1,350,333,230	△128,976,230
当年度消費支出超過額	125,369,000	183,173,581	△57,804,581
前年度繰越消費支出超過額	2,088,951,168	2,088,951,168	0
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越消費支出超過額	2,214,320,168	2,272,124,749	△57,804,581

## 貸借対照表

(単位:円)

(単位:円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	6,137,364,003	5,968,198,025	169,165,978
有形固定資産	6,037,036,073	5,867,829,678	169,206,395
その他の固定資産	100,327,930	100,368,347	△40,417
流動資産	249,914,771	299,953,673	△50,038,902
資産の部合計	6,387,278,774	6,268,151,698	119,127,076
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	2,070,833,483	2,207,301,267	△136,467,784
流動負債	701,225,341	417,183,990	284,041,351
負債の部合計	2,772,058,824	2,624,485,257	147,573,567

基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	5,808,344,699	5,653,617,609	154,727,090
第4号基本金	79,000,000	79,000,000	0
基本金の部合計	5,887,344,699	5,732,617,609	154,727,090
消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	2,272,124,749	2,088,951,168	183,173,581
消費収支差額の部合計	△2,272,124,749	△2,088,951,168	△183,173,581
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計			
科目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	6,387,278,774	6,268,151,698	119,127,076



**表紙写真について**

毎年恒例の全学クリスマス礼拝、そしてクリスマスパーティーが本学ホールでおこなわれ、約200名の学生・教職員がキリストのご降誕をお祝いました。

写真 株式会社DEITZ